# 名水会たより

大泉名水会・広報　　2017年9月

## 大泉名水会の委員会は、毎月第2日曜日の午前、東大泉地区区民館会議室で行われます。

**練馬区70周年記念番組～ねりまのここが自慢～で、大泉名水会が取材され、8月1日～15日『練馬ホットライン』で放映されました。**

### 番外編 大泉の名水（東大泉3-38-13）

秩父や奥多摩の山岳地帯に降った雨水が、地下水脈を通り、およそ100年かけて大泉に達しています。地下深くからくみ上げた良質な水は、どなたでもお飲みいただくことができます（午前9時15分～午後4時45分）。

※「ねりまほっとライン（1日～15日）」（=欄外）で放送します。

ねりまのここが自慢

［ねりま区報70周年記念特集号掲載記事より］

名水会ポスターが

新しくなりました。

大泉名水会事務所
練馬区東大泉33－38－13
☎03－3922－5460
メール:meisui@ksf.biglobe.ne.jp
ホームページ:"大泉名水会"で検索してください。

## 委員会トピックス

本年度の委員会は

◎事務所の美化を検討し、

◎各委員の職務伝達を口頭から文書方式へ一貫し、

◎会計処理方法を統一し、全体把握を可能にします。

### 各委員/事務所より

＜広報＞

7月20日am9:00~am11:30:名水会事務所に於いて、新ポスター23点を作成しました。

＜事務所＞

外構フェンスの修理・塗装が終了しましたので、ご確認下さい。

練馬のエコスポット 第24回

大泉リサイクルセンターオープン記念①

### 東大泉弁天池公園

大泉学園駅北口より徒歩約10分。高台の住宅地と都営住宅に囲まれた一角を、すっぽりくりぬいたように現れる楕円形の池。池の北西隅、木造の祠に石造りの蛇体弁天が祀られていることから「弁天池」と名付けられました。週末ともなれば釣り人で賑わう弁天池には、コイやフナ、クチボソ、ザリガニなどが生息しているようです。釣れた魚はすぐにリリースする、それがここでのルールです。

その昔、武蔵野台地の地下水が湧き水となってできた弁天池でしたが、戦後の都市開発が進み、すでに湧き水は途絶えています。では、なぜ？ 夏の日差しを浴びてきらきらと輝く水面の秘密は、地域と水の深いつながりにありました。

東大泉弁天池公園がある東大泉3丁目には、住民518世帯の会員によって管理運営されている水道事業団体「大泉名水会」があります。東京都の水道が敷設された昭和48（1973）年よりも30年余長い歴史を誇る民間団体です。水源は地下232メートルの深井戸で、水量豊富な深層水をポンプで汲み上げています。遠く秩父、奥多摩の地下水脈につながり、地層で濾過されながら年月を経て大泉に達し、一帯を潤す地下水は、水質が良く、とても美味しいとのこと。震災時の飲料水の確保のため、練馬区の防災井戸としてもご協力いただいています。現在の弁天池も、この地下水を汲み上げることで水位を保っているのです。

水と緑に囲まれた練馬のオアシス、東大泉弁天池公園。釣りや散策を楽しみながら、ゆったりとした時の流れに身を任せてみてはいかがでしょうか。

東大泉弁天公園から大泉リサイクルセンターまでは徒歩約15分。エコスポット散策後にぜひお立ち寄りください。

① 練馬区東大泉3-59-13
西武池袋線「大泉学園駅」下車徒歩約10分

取材・原稿 ゆずりは取材グループ

［練馬区立リサイクルセンター"ゆずりは"　vol.30掲載記事より］